

① 壮溪珠駒通所跡地

駒通所は、開拓のため北海道に渡ってくる人や、旅をする人の宿泊所として、さらに郵便の業務も取り扱っていた北海道独特のものであった。壮溪珠駒通所は、明治42年に開設され、明治45年長家国太郎に引き継がれ開拓に大きな役割を果たしたが、開拓の完了や鉄道の開通により昭和21年に制度自体が廃止された。壮溪珠駒通所は北海道の開拓を知る上で貴重な建物であるため、北海道開拓の村に移築され展示されている。

② 230号開拓 北門開拓像

東本願寺は、明治政府が開拓使による北海道の開拓を進めることになると、その開拓政策に協力し新道の開削を進め、移民を奨励するとともに布教活動を進める方針により、明治3年東本願寺新門現如上人(当時19歳)ら一行が伊達から札幌に至る103kmを1万8千両(現在の2億円)を投じ、わずか1年3ヶ月で本願寺街道(現在の国道230号)を完成させた。昭和42年東本願寺の関係者により中山峠頂上に建立され、峠を越えていく人々の無事を祈るようになっている。

③ 比羅夫神社

云われは、女帝斉明天皇の5年(659年)阿部比羅夫が蝦夷討伐の際、後方羊蹄(しりべし)を政所(役所)とし、郡領を置いて帰った。と『日本書紀』に記されている。幕末の探検家松浦武四郎が、日本書紀の記事内容から『後方羊蹄山は、政所の古址(こし)である』と唱え、明治28年河井篤叙が政所を確信、大正2年稲村道三郎に呼びかけ比羅夫神社を創祀したとされている。

④ 国鉄胆振線喜茂別駅跡

大正8年の倶知安から京極まで鉄道開通の後、胆振鉄道株式会社により昭和3年京極から喜茂別まで開通した。念願であった開通式は開村以来の祝賀行事が展開されたことある(当時の駅舎は現在のちびっ子広場付近)。昭和16年伊達までが開通し、昭和19年国鉄に買収され胆振線となった。その後、国道の整備により利用客が減少し、70年の歴史を刻んだ胆振線が昭和61年11月廃止された。

⑤ 開村記念碑

昭和13年開村二十周年を記念して、喜茂別期において馬の果たした役割は、極めて大きいものがある。駒通では交通と輸送のため、農家にとっては農耕と運搬のために欠くことのできない存在であり財産であった。馬頭碑建立は、馬の霊の安らかなる事を願うと共に、馬が病気になることのないように願い、建立され、町内各所に祀られている。喜茂別神社境内の碑は、町内で最も古く明治44年に建立された。

⑩ 喜茂別馬頭観音碑

開拓期において馬の果たした役割は、極めて大きいものがある。駒通では交通と輸送のため、農家にとっては農耕と運搬のために欠くことのできない存在であり財産であった。馬頭碑建立は、馬の霊の安らかなる事を願うと共に、馬が病気になることのないように願い、建立され、町内各所に祀られている。喜茂別神社境内の碑は、町内で最も古く明治44年に建立された。

⑪ 地神の碑

明治開拓期以来、民間信仰として故郷から伝承してきたものの一つに地神信仰があり、春と秋には祭りが行われ地域の様々な願いが寄せられている。留産の地神碑は珍しく他に類がない。天照大神(あまてらすおみかみ)など五神の名の

茂別神社境内に開村記念碑が建立された。

碑文
大正6年4月 胆振国真狩村ヨリ
分村、同時二級町村制施行
大正9年6月 同国徳舞警村字尾
路園ノ一部ヲ合併
昭和13年8月 経済更生特別助成
村ニ指定、同年9月全村字名改称、
並ニ地番整理ヲ実施セラレシ永久
記念トシテ

⑥ お大師山

喜茂別小学校の前方の丸い山が「お大師山」といわれ、苔むした88体の石仏が迎えてくれる。昭和の初期、森芳太郎が霊示を受け、信仰のためお堂を構えたのが始まりとされ、その後川口貞吉、杉本直治らの世話人による祈禱所が設立された。石仏は薬師如来、千手観音など14種でそれぞれに寄進者名が記され昭和5年建立とある。頂上には小さな太子堂(聖徳太子像安置)が祀られている。

⑦ 三宅伊勢松頌徳碑

明治元年香川県に生まれ、25歳のとき

石柱と、同じ台座に「木花咲耶姫(このはなさくやひめ)」を山神碑として祀り、馬頭碑を加えた三社が祀られている。大正5年に建立された。

⑫ 福島団体内植跡地

明治44年89戸400人が山梨団体に北接して4地区に分かれて入地したとされている。開墾地の条件が悪く開拓の苦労が容易でなく、その多くが数年のうちに転出したようである。入植後20年を経過した昭和5年記念碑を建立した。

⑬ 阿部嘉左衛門の墓

喜茂別最初の入植者。天保9年(1838年)宮城県に生まれ、明治4年伊達藩移住とあわせ渡道、同年東久世開拓使長官から伊達邦成が命を受け、阿部嘉左衛門ほか2名を喜茂別に入植させた(伊達市史)。明治8年フルボッケ(相川押切宅付近)で駒通所を再開、喜茂別神社境内の馬頭観音碑の建立など、本町の先覚指導者として定住した。明治45年8月74歳で没し、相川共同墓地上手中央に葬られている。

⑧ 南部団体内植跡地

「南部」の呼称は、青森県東部から、岩手県北部に至る通称で、この地域から北海道への移民集団を南部団体と呼んでいる。連年の凶作から北海道に再生の道を求め、明治35年岩手県本宮村を中心に鷹羽喜太郎を団長とする5戸34名が当時の上尻別(現福里)に集団移住した。碑は、昭和43年関係者により建立され、昭和56年現在地に移設された。

⑨ 庚申堂

喜茂別郷土研究会発行の「ヌプリ」1号には、「北海道にはめずらしい、庚申(こうしん)碑」として記述されている。建立の由来について、川口国雄談「私の母をは